

おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

—手応えの根拠—

NO. 82



「“できる？”って言われるとそうでもないんだけど、最近、スムーズになってきているのよね」「わかってる？」と言われても、そうだとは言えないんだけど、最近とても楽しそうに見える」なんてコメントを、お母さんお父さんから最近よく聞きます。1年の節目を迎え、春夏秋冬を過ごしてきた軌跡が滲み出している今日ですからね。家族だから“ひいき目”で見えてしまう部分はあると思います。「先生達の目のほうが確かですよ」と言われることもあります。そんなことはないです。いつも変わらない場面は、家にこそあります。昨日と今日と明日がほぼ変わらない場所の、一番は家庭です。いちばん力が出せている場が家庭であっても不思議じゃない。「他ではできないけれど、家ではできます」ってことがあっても、おかしくないのです。私達も、支援の場面を通じ子ども達と向き合っていると、確実にできるようになったり、わかるようになったりはしていないけれど、“なんかいい感じ”になっている手応えを感じるが多々あります。それって掘り下げてみると、目には見えにくいですが、しっかり育っているところがあるんですよ。

ポイントその①。遊べる時間が少しだけ長くなっていませんか？

同じミニカーでの遊びでもブロック遊びでも、DVDを観ている姿でも、本人の中で今までより少しだけ展開するようになってくると、ひとりで遊んでいる時間がちょっとだけ長くなっていると思います。お母さんが家のことをしている間、その遊びに前より少しだけ熱中しているので、用事も済ませるし、本人の満足感も少しだけ高まって、食事やお出かけといった次のことへの臨み方がお互いスッキリしているかもしれません。相変わらず同じ遊びで、時間も決して長くはないかもしれませんが、“できること”“わかること”“楽しめること”が少し膨らんでいるのです。

ポイントその②。向き合う構えがちょっとできてきていませんか？

自分でできることは増えていないけれど、“その気”になるまでが少しだけ早くなっていたり、「ああ、こうするでしょ」と状況を見て“そのつもり”になれる幅が少し広がっているかもしれません。落ち着いたさは相変わらずかもしれませんが、向き合う心地よさが育っていたり、状況を見て理解する力が育っていたりする証です。“知っていること”が増えているのです。そうになると、「NO」も明確になってきますけどね。

ポイントその③。“誰かと一緒”がより好きになっていませんか？

いろいろな場所での丁寧な出会いがあり、いろいろな場面を経験して、人と過ごす賑やかさや、心地よさを味わい、場所や人のメニューが少しずつ増えてきた子は多いと思います。まだ自分からやり始めるわけではないし、長い時間は続かないかもしれないけれど、身近な大人や友達と“一緒”にいるほうが一人でいるより楽しそう、なんて姿です。楽しさ＝安心です。特に何もしないけれど、一緒にいることだけで前より安定している、なんてことはありませんか？ その一番の場所が“家”です。まだできないけど、ちょっとやろうとする“いたずら心”を出す余裕のある場所です。



育ちが見た目にわかるようになるためには、子どもの中でもいろいろな準備が必要です。土の中で芽は確実に育っています。これ、気休めではないです。根拠ある手応えですよ。(R5. 3) K